

## 「恵みを分かち合う」 ～何のために分け合う？～

マルコ6：34～44

人は自分がしようとすることを、生活がかかっていると何事も真剣にします。それぞれが生きていくために方法を見つけたいです。人が人としてあるためにこの事を熱心に行っています。動物たちは争うことで強さを見極めています。人間はどうやっているのでしょうか。人間は仲間を作って生きる方法を探しています。たとえば千円札の束がおちているとします。あなたが見つけ手を伸ばそうとした瞬間、後ろからもう1人きてほぼ同時に見つけました。あなたならどうしますか？5：5、6：4・・・比率は様々ですが結局分け合うのです。なぜもう1人の人あげるのでしょうか。いざこざになるのが嫌だからです。アダムとイブが罪を犯した後、二人から産まれたカインとアベルは神様に捧げたいけにえのことで嫉妬し弟であるアベルを兄のカインが殺してしまうということになってしまいました。このときから人々は「出会うと戦」となってしまう、つい最近までそうでした。そこで知患者たちが「独り占めがよくない」ということで分け合うという概念になっていきました。「痛み分け」これが現在の価値観です。「自分がだまってすむならそれでいい」これは先天的に受け継いでいる私たちの逃げの思いです。分け与えることは美学ですが、本当に相手のためにしていることではありません。自分を守るためなのです。私たち人間は自分だけが幸せになることを望んでいません。みんなが幸せになることを望んでいます。しかしその元は自分を守るためなのです。これは究極の自己中心でとても怖いことです。(マルコ6：34～44)これは五千人の給食というイエス様が起こした奇跡の1つでした。私たちが分け与える時に確かに奇跡は起きます。受けた恵みを分け合えるというのはすばらしいことです。私たちが受けたものを流す時、なくなることはありません。たとえ自分のためであったとしてもそうです。だから誰かに何かをして「ありがとう」と言われるのは好きではありません。これは相手が自分の気持ちに添えてくれることが目的です。しかし私たちクリスチャンはそういう思いではないし、誰だって愛する人には違わずです。見返りのためではないはず。だからこそ私たちが本来、本能で持っている思いを考えなくてははいけません。**利己的になっていませんか。**人々にすることが自分のためになっていたら意味がありません。心の根底がなんのためなのか・・・私たちはよいことはやっていますが、聖書ではその動機とプロセスが大切だと言っています。私たちは結果主義になっていきやすいですが、いい加減なプロセスは必ず返ってきます。「半々なら痛み分け、それ以上になったら腹が立つ」「自分の願いが叶わないと仕返しをする」これは愛でしょうか。イエス様は十字架の上で下着さえも十字架刑を執行していた兵士たちに奪われ分けられました。このことを通してイエス様はもてるものの100%を使って相手のために流し、その結果すべての人の愛を受け継ぎました。私たちはよいことはしますが、その目的が違くとズれてしまいます。**見下してチャンスを逃していませんか。**「安全を得るため」「相手を見下して助けてあげるといふ気持ちです」・・・私たちが相手にするのはこんなことになっていないでしょうか。困っている人を見て「よかった。自分はこんな状況ではない。幸せな分をかえしてあげよう」・・・一見聞こえはいいですが、これは分け与えるという心ではありません。あくまで、「自分に影響がない程度」なのです。「貧しい人を助けるのは好きだが、豊かな人を助けるのは嫌い」これが見下している証拠です。自分より困っている人を助けることに優越感にひたっているのです。95%はよい気持ちであっても5%に自分の利益があったら意味がありません。私たちはこの5%を見張らなくてははいけません。そうでなければよいことが、地に落ちる「慈善事業」になってしまいます。私たちはよい気持ちで最初はしますが、心のどこかがずさんでいってしまいます。だから私たちは心の底をしっかりと見張らなくてははいけないのです。弟子たちも5000人の人のことも考えていたのですが、結局は自分の立場を考えていたのです。チャンスを逃さないようにしなくてははいけません。「友はどんなときにも愛するものだ。兄弟は苦しみを分け合うために生まれる」(箴言17：17)自分が上目線になってするのはなく、その苦しみを共に分け合うのです。**分け与えるとは天に宝を積むこと。**「あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい。」(マタイ6：3)自分自身にも気づかれないようによいことをするのは、私たちのよいことは人に見せることではありません。あげることを上目線でやっていると、もらうのが当たり前になり愚かになってしまいます。だから天に宝を積まなくてははいけないのです。「すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』」(マタイ25：40)自分のためにやるのはいけません。返ってくることを目的としても意味がありません。よいことはみな、天で見られています。今あなたがよいことをしようと思っているなら、あなたの心の中までよい気持ちにしてください。「誰かのためにしてやっているのに、恩を仇で返して」もしこういう思いが湧くなら自分のためによいことをしている可能性が高いのです。イエス様のためにやる・・・今日からそのような思いで歩いていきましょう。(要約者：岩崎 祥誉)